

各委員への個別ヒアリングの概略

令和元年10月～12月にかけて、本委員会の委員会各位へのヒアリングを実施しました。以下にその概略を整理します。 ※詳細なヒアリング概要については後日整理いたします。

(1)教育関係者

- 小学校ではカリキュラム消化に時間を取られて、現状では授業等の中でILCを取り上げられる時間は学期あたり1時限程度になる。市・教育委員会が号令をかけてさらに**ILCを取り上げられるような流れ**を作ることが必要。
- ILCが整備されることによる**恩恵をさらに具体的に示していく**ことが必要。
- 科学への興味喚起、**多文化共生に向けてソフト面のインフラを整備**することが必要。

(2)観光業関係者

- ILC関係者・視察者による**観光面での波及効果**には期待したい。
- 外国人対応**も様々な取組みは行われているが、定着あるいは効果が上がっているか否かは今後の状況を確認することが必要。

(3)産業(商工業)関係者

- 大船渡市においては、**ILC建設の際の物流基地**を担い、検査・輸送等に係る波及する産業(スピノフ)を建設時から誘致していく戦略が必要。
- 波及する産業(スピノフ)を受け入れるには、**起業の意思決定に答え得るスピード**が必要であり、土地や施設に関する支援はあらかじめ用意することが有効。
- 波及効果を興すアイデアや行動は当事者、特に若者が担うことになる。一方でそうした人々が船渡で事業を展開するための**人材や制度面の支援・仲介を地域・行政で担い**、そのための体制・組織作りを進めることが重要。
- 現段階で想定しうる恩恵・波及効果を「**たとえば・・・**」で**良いので積み重ねる**ことが必要。

(4)産業(商業)関係者

- ILCは整備自体から未確定であるが、**今からでも取り組んで損の無い取組みは多い**。
- 地域は**インバウンド**対応一つとってもトレーニングが必要な状態にある。
- 人材やニーズをつなぐ組織**は必要で、若い人たちも含めて、ILCから何を生業につなげることができるか語り合うことから必要。既に大船渡市で培っているノウハウもある。

(5)市民活動関係者

- 子ども達にとっては「**科学**」「**宇宙**」は**興味をひきやすい分野**の一つ。
- ILCの誘致は、英語でのコミュニケーションの普及にはまたとない機会となり、地域で移住者や企業の受け入れに向けて「**選ばれるまち**」の**ベースを作る**ことにもなる。
- ILCがあることで、**郷土愛とキャリアパスを両立**することができるようになり、高度教育を受けたい(受けさせたい)人が大船渡市を離れざるを得ないということが減り、定住化の進展が期待できる。

(6)医療関係者(病院)

- 現在は**人手不足**で、このまま再び工事関係者が増えると病院業務は負担が大きい。
- 派生が期待できる研究機能は内陸にあるので、そちらとの**交流**が重要。
- 現在、外国人対応は特に行っていないが、釜石では取り組みをしていたようだ。
- 技術の進化により医療が進化した例としては光学技術の進歩により腹腔鏡手術が一般化し、身体への負担が小さい手術ができるようになったことが挙げられる。そういうイノベーションはILCでもあるのではないか。

(7)交通事業関係者(バス)

- まず現在も多い**研修生へのおもてなし**を考える所からインバウンドのヒントが見える。
- 規制により復興で都市構造が変わっても路線を不便なまま調整できない。**規制緩和**が必要で、その際の市の協力は大きな力になる。
- 市役所及び商工会議所等とともにラウンドテーブルで情報交換・意見交換を行う場が必要。

(8)飲食業関係者

- 慣れ**は重要。今では従業員は外国人に構えることが無くなった。
- 被災地めぐりの人をどう満足させるかを考えるのと同じように、**ILCに係る工事関係者や研究者をどう満足させるか**を考える必要がある。
- 外国人から見ると大船渡は名が知られていないので、いきなり大船渡を目指してくる外国人は少ない。一方で、外国人の旅は滞在期間が長いので色々な場所をまわる傾向がある。

(9)外国人研修支援関係者

- 現状では研修生(主にアジア)は**移動に困っている**。
- 単なる観光案内でなく、**口コミレベルの中身の濃い情報発信**が重要(例:「大盛の昼食なら・・・」)
- Wifiの充実は有意義。防災放送、携帯通報など**外国人に伝わらない情報伝達は多い**。

(10)商店街関係者

- 今年度行われる委員会の3回の話し合いだけでなく**継続的に議論を行うことが必要**。
- 外国人に来訪してもらうための一定の**規制緩和やルールの見直し**が必要(例:海域の使い方等)。
- 多文化共生にはまず「**(外国人への)慣れ**」を作ることが重要。

(11)建築設計業関係者

- ふるさと教育**の中にILCも組み込んでいくことが重要。
- 地元業者との通訳を担えるなど市をはじめとする**語学力の向上に向けた取組**が必要(採用等)。
- 地元業者で参画するには**横連携**が必要。
- 今年度の3回だけでなく**継続的に議論を行うことが必要**。

(12)社会福祉関係者

- 大船渡は「**受け容れる力**」は強い。復興での出会い・受け容れの経験が I L C でも活きる。
- 大船渡市民には見え難い「**来街者(よそ者)の視点**」で魅力を自覚することが重要。
- 効果や起こることを噛み砕いて説明**してもらえると、夢や取り組みを語りやすい。

(13)交通事業関係者(鉄道)

- 建設期の需要増は関心あり。同時期の需要増を図るには飲食等の**異分野との連携**が必要。
- W 杯は混雑していたが大きな混乱は無かった。ただし、大船渡市は J R と三陸鉄道の結節点になるので**キャッシュレスサービス** (Suica) がそのまま使えないなどの不便が外国人にはあったようだ。
- 復興工事が盛んであった時も工事関係者の利用はあった。同じように工事関係者が常駐するようになるなら、営業努力やイベントによって誘客を行うことはできるだろう。(宴会列車を運行したこともあった)

(14)保育関係者

- 建設期の大型車等の通行に関して**安全配慮**が必要 (ルートの限定、棲み分けなど)。
- 宇宙等への子ども達の関心は高い**。紙芝居、DVD、イベントでの体験などをできるといい。
- 外国人と接する機会**を今からでも増やしていくことが重要。
- 他の幼保及び行政・市民団体と連携して**アイデアを出し合う機会・話し合いの場**は有効。

(15)青年協議会関係者

- W杯のようにスポーツはイメージが湧きやすいが、I L C は興味が湧きにくい面があり、これを克服して地元を盛り上げて啓蒙していく必要がある。I L C は産業界には浸透しているが、市民には届いていない印象。
- ALL IWATE のイメージ**を浸透させて、(離れてはいても) I L C は大船渡とも一体であるイメージを形成していく必要がある。
- 今後も話し合いを継続することは重要**で、そのためのテーブル (話し合いの準備等) を作ることに慣れやノウハウを有している。

(16)教育関係者(高校)

- 高校としてのカリキュラムはあまり動かせない中、「大船渡学」に係る取り組みは生徒の自主性に任せており、一定の成果を挙げていると思う。
- 大船渡市として I L C を周知して広げてどうしたいのか、**考える取っ掛かりを作っていくことが必要**。多文化共生にしても、そうした目標を共有するために「多文化共生により大船渡がどういう社会になるのか」という目標を掲げることが重要。
- 知識を吸収できる場面**が増え、機会をつくることにより生活に影響があるということがわかれば、I L C への興味もさらに喚起されるだろう。

(17)林業関係者

- グリーンILC**という、エコロジーや地場産材の活用という I L C 誘致方針は悪くないと思う。さらにエネルギーに関しても廃材からのバイオマス発電など林業が活躍できる場はあると思う。
- I L C 周辺の施設を木造で造るにあたっての供給量は概ね確保できるのではないかと。むしろ人手不足による生産量の不足は課題になるかもしれない。
- 住田町では「認証材」という一種の**ブランド化**を進めている。

(18)医療関係者(薬剤)

- アレルギー対応については薬剤師も聞き取りを行うことはある。**相手が外国人であれば何らかのコミュニケーション能力が求められる**ことになる。たいていは付き添いがいるのでなんとかなるが、スマホなどの機器を頼る場合もある。
- 外国人等への薬剤の投与に制約がついていることはない。人それぞれでしかないので聞き取りでしかわからない。お国柄で薬剤の利きに良い悪いも生じることがある。

(19)交通事業関係者(鉄道・バス)

- ラグビーW杯に関して悠長に構えていた経緯があるが、早いうちからやった方が良い。あとになると「時間が無い」という言い訳が利いて妥協してしまうようになる。
- 広い圏域に影響するものを、個別の都市毎で対応するのは難しい。同じ企画を作る場合、「各市のもの」よりもそれを線で結ぶパッケージとして扱う方が良い。東北の観光資源は単体では戦えないので、協力し合ってポトムアップを図っていくという考え方で大船渡市だけでなく、**広域連携**してしてくれた方がありがたい。
- 今後は鉄道そのものだけでなく、**キャッシュレスサービスなどのサービスの連続性**で旅のエリアが変わってくるということはあるのではないかと。

(20)建設業関係者

- 委員会は継続が重要**。市役所と商工会議所が一丸となって方向性を示していくのが筋ではないか。そこが中心になってやっていくことが重要。
- I L C に関して内陸と沿岸部との考え方の格差は歴然としている。大船渡は大きく遅れている。内陸部の雰囲気は体感して、聞いて、体験しないとわからない部分であると思う。アクションプラン策定委員会のような組織が**奥州市、一関市に行って話しを聞いても良い**のではないかと。
- 工事になると課題は技能不足、人手不足をどうするかに尽きる。
- 人口減少がどんどん進んでいる中で結局4年に一回のお祭りも子供も少なくなって寂しい。サイエンススクールなどを通じて教育分野の浸透も図っていったほうが良いのではないかと。

(21)観光関係者

- 海外からの来訪者を呼び込む上で **Wifi、キャッシュレスサービス**などはインフラとして重要。
- 内陸部や釜石市とかに比べて大船渡市は「大手」を受け容れることに保守的な部分がある。一方で対人関係としてはいろんな人が入ってきて受け容れやすくなっている。「**ファン**」が付いているような**キーマン**が市内に複数要することは強みかもしれない。
- 大船渡だけ P R しても、そもそも陸前高田市や住田町など通り道になる所にも一抛りするコンテンツが必要。大船渡のものを一つだけ目指して来てもらうには無理がある。**既存のピースを組み合わせて、エリア全体で連携**していく必要がある。キャッセンなど大船渡で連携していくことは有効ではないかと。

(22)子育て支援関係者

- 医療分野は大丈夫だろうが、産後のケアは外国人も含めて重要。**生活を支えることが住みよさにつながり定住に繋がる**。産後は周りが支えてあげないといけないところなのかもしれない。
- 大船渡病院と市役所、そして子育て支援団体が連携できれば切れ目のない連携ができるのではないかと。
- 子育ての中には**防災の視点**も大事だということは絶やさないようにしないといけないと思う。
- 福祉と連携**していくことも必要。スマホで連携して情報を受けることが重要。スマホで対応できるようなことも考えていかないといけない。